

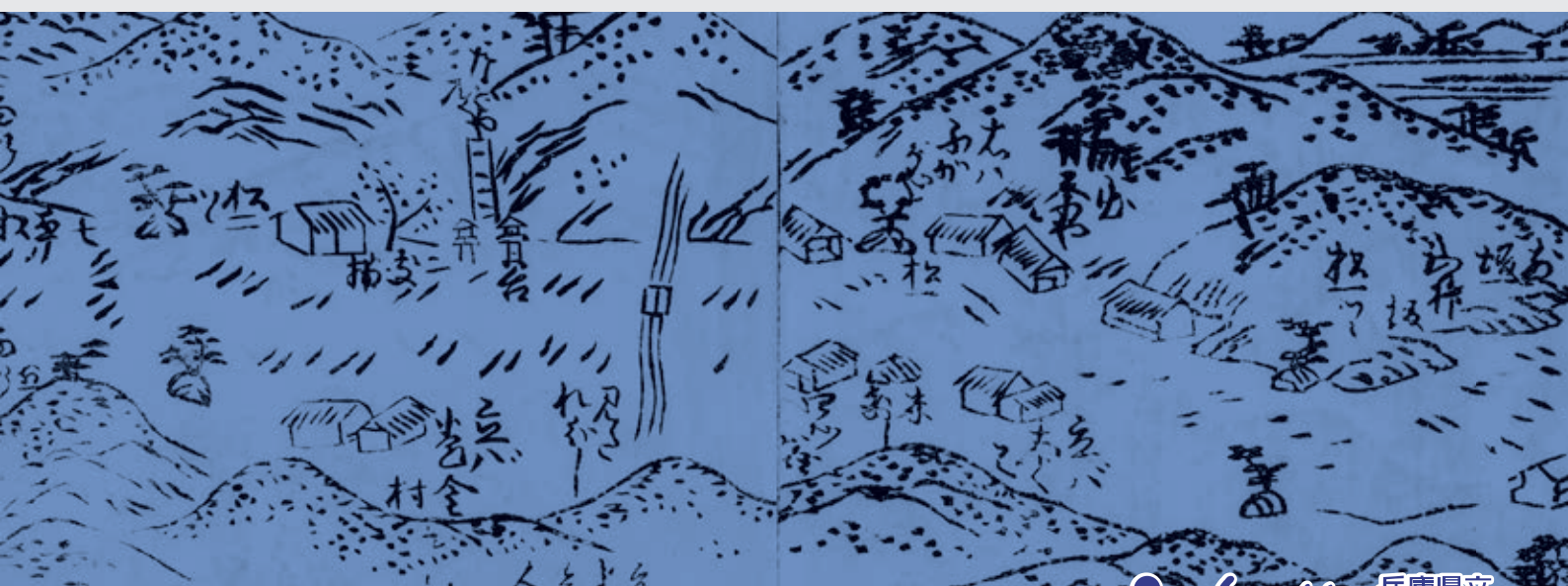
## 裏表

企画展 2026.7.18.(土)~2027.1.11.(月・祝)

## ウラとオモテの世界 界世のネチホネ

生き物にも、人にも、社会にも・・・

あなたが見ている“オモテ”には、必ずつながる“ウラ”がある。  
ウラとオモテのつながりをいつもと違う視点で考える企画展。



東海木曾両道中懐宝図鑑(京都大学附属図書館所蔵)《図上:東海道・島田宿/図下:中山道・大宿(大久手宿)》  
江戸時代、表街道として重要な役割を果たした東海道とその裏街道として賑わった中山道の両方が描かれたガイドブック。  
いずれも大井川が描かれ、江戸防衛の観点から橋がなく川越しの難所であった東海道に対し、中山道には橋が架っている。

博物館が所蔵する標本の中には、世界に一つしか存在しないものが少なくありません。そうした標本ほど、展示や館外貸し出し、レプリカ制作のための型取りに慎重な配慮が求められ、教育普及の場で柔軟に活用することが難しいという課題があります。そこで重要になるのが、3Dデータをもとにしたレプリカです。3DスキャンやCT撮影、写真撮影によって、実物にほとんど触れることなく、形や大きさ、細かな特徴まで記録することができます。さらに、そのデータを3Dプリントし、着色を施すことで、展示や体験学習に活用できる「触れられる標本」として生かすことも可能です。データは離れた博物館どうしでも共有しやすく、研究や教育の広がりにもつながります。

私はこの手法を用いて、これまでガラス越しに眺めることの多かった標本の世界を、より実感を伴う学びとして届ける仕事に取り組んでいます。ナガスクジラの骨格展示では、複数種のイルカの頭骨レプリカを制作し、触れて比べながら、鯨類の多様な生態や特徴を学べるようにしました。兵庫県産の草食恐竜二種についてもレプリカを制作し、歯の形の違いから食べ方の違いを伝える教材として活用しています。レプリカを通して、標本を守ることと、その魅力を伝えることの両立を探っています。

長野あかね(コミュニケーション・デザイン研究グループ)



図1 イルカの3Dレプリカに触れながらナガスクジラとの比較をしている様子

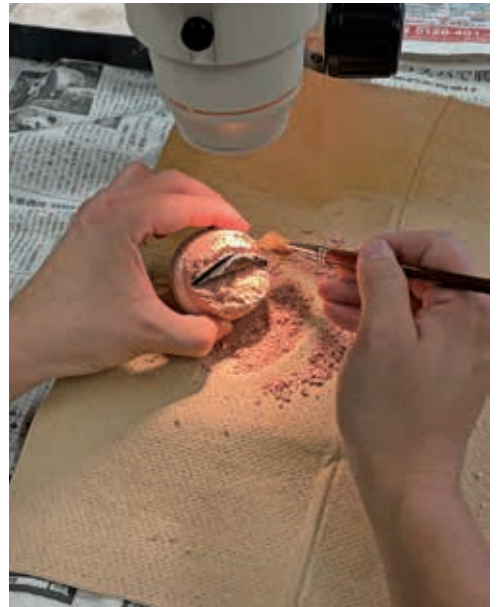


図2 ヤマトサウルスの3Dプリントレプリカを発掘するセミナーの様子

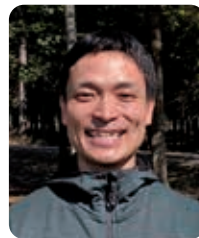
## トピックス

## 新入研究員の紹介



標本やレプリカを使って展示や普及活動を行っています。標本の身近な自然にひそむ“灯台下暗し”な魅力やおもしろさに気づいてもらえるように頑張りたいと思います。

コミュニケーション・デザイン研究グループ 長野あかね



野生植物の多様性研究に取り組んでいます。とくに遺伝情報を活用する保全遺伝学や系統地理学、系統分類学に関心を持っています。野外調査と遺伝解析を組み合わせながら研究に従事します。

生物資源研究グループ 倉田正観

